

色水を作ろう ~ すごくきれいでしょ ~ 刈谷市立東刈谷幼稚園（愛知県刈谷市）

[5歳児]

事例1 色水できたよ

(5/15)

A児はツツジを拾っている。保育者も一緒に拾いながら「こんなにたくさんになったよ。このツツジで何かできないかな?」とつぶやく。近くにいたB児が「色とか出るかなあ」保育者「そうだね、色水作れるかな」A児「あっ、それ前にもやったことがあるよ。面白そう。やってみたい」と言う。そこで道具のある場所へ行き作り始める。A児はカップを選び、そこに集めたツツジと水を入れ、手ですりつぶす。近くにいたB児も色水を作り始める。B児も同じように手でつぶし「色が出てきたよ」と色が出たことを喜ぶ。A児はあまりはっきり色がでないことが気になるのか辺りを見回し、近くからしゃもじを持ってきてトントンと叩くようにつぶす。すると少し色が濃くなり「わぁ、出た出た」と喜ぶ。



事例2 私はこれ(ざる)でやってみよう

(5/16)

A児、B児、C児、D児がツツジを拾い、色水遊びを始める。C児は道具の入っているワゴンからすりこぎを持ってきてすりつぶし始める。そして「こうやってやるとたくさん色が出るよ!」と驚いたように言う。保育者は「本当だね。よくつぶれて色がでてくるね」と認めるとA児、B児もすりこぎですりつぶし始める。D児は「私はこれ(小さいザル)でやってみよう」と言ってカップの上にザルを置き、その上に花を置いた。そして花の上にペットボトルの水を少しずつたらし、すりこぎですりつぶした。D児はザルを取り、カップの中の色水を見て「わぁ、こんなに色が出てきたよ」と喜ぶ。保育者は「わぁ、こんなに色が出たんだね。ザルでやると良く色が出るね」と言う。A児は何も言わないが花を少量ずつ入れそれが見えなくなるまでつぶしている。「Aくんは少しずつ花を入れて見えなくなるまでつぶしているんだね」と声をかけると「うん、もうこんなに赤くなっちゃったんだよ」と見せる。しばらくするとC児が「違う花だとどうなるのかな?」と言い、近くのパンジーを摘んでくる。「わたし、葉っぱでやってみよう」と葉っぱをザルでこすると粘りが出てくる。C児が「何これ?納豆になっちゃったよ」と驚く。B児は花びらをすりつぶし「この花、ツツジよりすごい色が出るよ!」と驚きながら作っている。



事例3 先生見て、私は水色。すごくきれいでしょ

(5/17)

C児は青色のパンジーを取ってきて、緑色のがくの部分をナイフで切り取り、カップの上のざるに青色の花びらのみを入れた。そして少しずつ水をたらし、昨日のようにすりこぎですりつぶし始める。C児「先生見て、私は水色。すごくきれいでしょ」と得意げに言う。保育者は「本当、きれいだね。青色の花びらだけで作ったんだね。緑色のがくのところはナイフで取ったもんね」C児「そうだよ、他の色が混ざるときれいにならないんだもん」と言う。保育者は「そうだね。青だけだとそんなにもきれいな水色になるんだね」と認める。その会話を聞いていたA児は、いろいろな花を混ぜて作っていた色水を捨て、青色の花をプランターに摘みに行く。そして、ナイフとまな板を持ってきてC児と同じようにがくを切り落とし、花びらだけで、もう一度作り始めた。

この日の出来事をクラスで紹介すると次の日には、他の幼児も色水遊びをやり始め「どうやって作るの?」と友達に聞いて、道具や花を選びながら色水を作る姿が見られた。

<考察>

もっと色を出せるように、自分で道具を選んだようだ。これは、保育者が用意しておいた道具をぱっと見て、どのように使うといいか何となくイメージできたからだと考える。自分で探して持ってきてくれるよう、目につくところにいる出しておいたところ、こんなふうに使えそうだと分かりやすかったことで自分から試す姿につながった。また、友達がやっているのを見て、C児は違う方法でやってみようと思ったようだ。丸テーブルを用意したことで友達のやっていることがよく見えて、影響し合えたようだ。繰り返し遊ぶ中で、きれいに作りたいというこだわりができたようだ。このことで、そのためにどうするのかが考えたり、友達の真似をしながら自分で試したりしている。繰り返し取り組む中で、発見や気づきも多くなっているようだ。

みどころ

幼児なりに考えて探求して遊びを楽しむには、<幼児が探求して変化に気付けるような環境>や<支える保育者の援助>が大切であることが分かります。使える花、作りたい色をイメージできる花を選んでいたり、<手でつぶしてみる しゃもじで叩く すりこぎやざるを使う ナイフで使いたい部分だけにする>という使う物の工夫から、考えて進めていることが伝わります。「きれいな水色」というできる色にこだわって追求する子どもの思いは、考えや工夫を深めるだけでなく、友達にも魅力的なめあてになっています。